



曳山歌舞伎座
紙芝居スタッフ

下郷 靖子さん(右)
鈴木 幸子さん(左)

曳山歌舞伎座での紙芝居上演

紙芝居は、読み手の感情の入れ方、表情、言葉の強弱、間、紙の抜き方、目線、聞き手の反応などによって、同じ物語でも伝わり方が変わってきます。私たちは今回の博覧会を通して、人が作りだす魅力を実感し、技術が進歩する中でも、人のあたたかさ、手づくりのよさを大切にしていきたいと感じました。



長浜城歴史博物館一門衆
売店スタッフ

脇坂 昌子さん(右)
岩根しづゑさん(左)

売店での販売と案内

会場には、全国からたくさんの方がお越しいただきました。来てよかったと感じていただけるよう、できるだけ声をかけるように心がけていましたが、何気ない一言に喜んでいただき、その会話から私たちも元気づけられました。改めて出会いの大切さ、言葉の大切さを実感することができました。

ごあいさつ



一豊公・千代様キャンペーンイベント
実行委員会 会長 高橋 政之

327日間に及ぶ博覧会が、盛況のうちに閉幕いたしました。これも企画、実施に携わっていただいた実行委員、運営委員の皆様、チケットの購入や協賛にご協力賜りました自治会、企業の皆様、さらには関係機関のご支援・ご協力の賜と感謝申し上げます。

記録的な大雪の中ではじまった博覧会でしたが、4月以降、右上がりに入場者数が増え、多くの観光客がお越しになりました。いまや観光は質、量ともに長浜の地場産業といってもよいほどになりました。地域経済の活性化さらには地域の人々が誇りをもって暮らせるまちにするためにも、今回のような市民主導のまちづくりがますます盛んになることを願っています。

北近江一豊・千代博覧会大会長
川島 信也



北近江一豊・千代博覧会が、65万人を超える入場者を数え、大盛況に閉幕いたしました。一年にわたり企画・運営にご尽力いただきました実行委員、運営委員の皆様と、ご協賛・ご協力いただきました関係機関と企業の皆様、さらには温かいご支援をいただきました市民の皆様、本当にありがとうございました。

この博覧会は、市街地だけでなく、一豊公・千代様ゆかりの米原市や虎姫町を結ぶ巡回バスの運行、湖北一帯へのドラマツアーの実施とツアーセンターの設置など、広域観光の推進に大きな役割を果たしました。今後、こうした取り組みが市民主体で継続され、広域的な滞在型観光の推進と地域経済の活性化へつなげることを願ってやみません。

夢と絆を

11月30日で、327日にわたり開催されてきた博覧会が閉幕しました。この博覧会では、数多くの方々に、さまざまな分野で盛り上げていただきました。このページでは、携わった人々と、閉幕を前に行われたフィナーレイベントの様相を紹介します。

語り部ガイド

伊藤 茂治さん(右)

湖北一円のバスツアーや博覧会場の案内



全国から多くの方がお越しになりましたが、湖北の歴史に興味がある方がたくさんいらっしゃいました。また、貴重な仏像や実物の曳山を見て、感激される方も多く、改めて湖北の魅力を感じることができました。これからもその魅力を多くの人にお伝えしていきたいと思っています。

上手にお酒と付き合おう

年末年始はお酒を飲む機会が増えます。適度な酒は心身をくつろがせ、コミュニケーションを円滑にしてくれます。しかし楽しいはずのお酒の席で体調が悪くなってしまったりは台無しです。体とお酒のことをよく知って、上手に付き合ひましょう。



■お酒に「強い人」「弱い人」は何で決まる？

あなたはお酒に強いですか？弱いですか？

お酒に強いのか弱いのかは実は体質によって決まっています。

アルコールは肝臓でアセトアルデヒドに分解されますが、このアセトアルデヒドは顔を赤くしたり、頭痛、吐き気や胸がどきどきするなどの「悪酔い」の症状を起します。

この「悪酔い」の症状を抑えるのが、アセトアルデヒドを分解する酵素（アセトアルデヒド脱水素酵素）です。

この酵素がよく働く体質の人は、お酒を飲んでも「悪酔い」の症状が出にくく、酵素があまり働かない体質の人は、少量のお酒でも「悪酔い」の症状が出やすいということになります。

■実は日本人はお酒に弱い

日本人は、この酵素があまり働かない体質の人が多く、約44%の人が「お酒に弱い」といわれています。

■上手に付き合うために

少しのお酒でもすぐ顔が真っ赤、心臓がドキドキ、胃がむかむかするなどの症状が出る人は、遺伝体質ですから訓練してもかわりません。急性アルコール中毒の危険が非常に大きいので、「一杯ぐらい」と勧められても断固断ってください。

「赤くなりながらそれなりに飲む」人は、無理して飲むと肝臓をこわしやすく、食道などのがんにもなりやすいです。自分の適量・自分のペースを守って楽しんで飲みましょう。

飲んでも「悪酔い」の症状が全くでない人は、実は一番お酒の害にさらされやすいのです。飲んでも顔に出ないのでイッキ飲みの標的になりやすく、短時間にたくさん飲むと急性アルコール中毒になります。また習慣的に飲んでいると肝臓の働き低下・糖尿病・高血圧などの病気が忍び寄ります。週に2回はお酒を飲まない日をつくり、お酒はおかずを食べながらゆっくり飲みましょう。

精神しょうがい者家族相談員が相談をお受けします

①精神しょうがい者の方の相談先として、家族相談員の方に活動して頂いています。面談、電話などで相談できます。まずはお気軽に、次の相談窓口までお越しください。

相談窓口 場所；長浜市保健センター分室2階
日時；毎週月曜日 午前9時30分～午後4時
(ただし、第1月曜日は3時30分まで。)



②相談員になっていただける方を募集しています。精神しょうがい者ご本人あるいはご家族の方で関心のある方は、下記までご連絡ください。

相談員代表 高橋 信義(精神障害者および家族会「萌黄の会」)
連絡先 長浜市健康推進課 ☎67779

保健所でも次のような無料相談を受けられます

アルコール相談	毎週第3月曜日 13時30分～16時(要予約) アルコール問題からの回復のために、専門医師による無料相談が受けられます。 (相談医 精神保健福祉センター 千貫 悟 医師)
精神保健福祉相談	月1回 13時30分～16時(要予約) 悩みや不安、心配ごとなど、精神科医の無料相談が受けられます。
老人性認知症相談	毎月第4木曜日 午後(要予約)

お問い合わせ先 長浜保健所 長浜市平方町1152-2 ☎0749-65-6610

12月1日は世界エイズデー

エイズに関する正しい知識をもち、エイズのまん延を防止し、患者・感染者に対する差別・偏見をなくしましょう。

ほけんだよりの次回掲載は1月15日号になります